

地域連携ふんわり実れ

研究者・松村豊吉たたえ



ビニールのかかった畝に洋綿の種をまく参加者

松江、雲南市民綿種まく

松江市内六つの公民館などが連携して進める綿栽培計画「里山笑楽校プロジェクト」の一環で、同市民らが10日、雲南市大東町山王寺の農場で洋綿の種まきを行った。日本で初めて洋綿栽培に成功し

た松江市ゆかりの松村豊吉（1868～1959年）の功績を顕彰し、綿による地域活性化を目指す取り組みで、約50人が晴天の下で汗を流した。

豊吉は出雲市出身で、結婚後に移り住んだ松江市内で綿の栽培方法を約30年にわたり研究した。

プロジェクトは、城西、城北、城東、雑賀、白瀧、朝日の各公民館の関係者と、寒暖の差が激しく、綿栽培に適した雲南市大東町山王寺の自治会員らが企画。1月以降、草刈りや畝立てなど農場10㍏を整備した。

種まきでは、参加者が用意された約千個の種を、ビニールをかけた畝に約80㍏間隔で手際よくまいた。松江市内立中原小学校2年の糸原莉樹君（8）は「土が硬くて、ほぐすのに苦労した。大きく育ってほしい」と笑顔だった。

農場管理者でプロジェクトチーム代表の多久和厚さん（63）は「雲南市大東町山王寺」は「たくさんの方が参加してくれてうれしい。収穫を楽しみにしてほしい」と話した。収穫は10～11月ごろを予定し、収穫量や綿の出来によっては商品化も検討する。